

人気会計士が語る、小さな会社の経営“これだけ”（第7回）

固定費の活用によって、粗利益率向上をめざす

2019.05.10

顧問先2200社を抱える会計事務所を率いる公認会計士、古田土満氏が語る小さな企業の経営のコツ。前回は経営の目安となる売上高経常利益率の目標を定めるには、粗利益率から考えればいいことを解説しました。それでは、粗利益率はどのように考えればいいのでしょうか。今回は、経営者の成すべき粗利益率の向上方法について解説します。

粗利益と人件費、経費、金利の関係とは



中小企業が元気になるためには、お金をもうけることです。この指標として損益分岐点比率について考えてきました。

次に、損益分岐点の見方についてです。

損益分岐点比率は、 $\frac{\text{固定費}}{\text{粗利益}}$

労働分配率は、 $\frac{\text{人件費}}{\text{粗利益}}$

となり、どちらも分母に粗利益があります。粗利益は固定費と経常利益に分配され、固定費を分解すると、人件費、経費、金利になるわけです。

中小企業は労働集約的な業態ですから、労働分配率が高くなっています。会社の業績を良くするためには、労働分配率を低くしなければならないので、多くの会社では人件費を変動費化するために、正社員を少なくし、外注化、パート化、出来高給などにして人件費を抑えるわけです。

大企業の人員削減によるリストラも、この手法です。しかし、中小企業では、そもそも人が集まりません。縁あって働いてくれている大事な社員で会社が成り立っています。会社が支えるべき、社員の家族もいます。経営者はまず、社員と家族を守らなければなりません。

生産性を高めるには、粗利益をアップさせること… 続きを読む